



認定NPO法人
コクレオの森

箕面こどもの森学園

〒562-0032 箕面市小野原西6-15-31
TEL/FAX 072-735-7676
メール info@cokreono-mori.com
WEB https://cokreono-mori.com



20th ANNIVERSARY BOOKLET 20周年記念誌

SPECIAL CONTENTS

特集
夢みる小学校
オオタ・ヴィン監督
メッセージ



MESSAGE

創り続けて20年

20年前、「子どもが生き生きと学べる、新しいタイプの学校を創りたい」と願い、青い屋根の一軒家で、7人の子どもたちを迎えて、名前の通り、わくわくした気持ちで学校づくりをスタートさせた日から、早いもので20年が経ちました。

今では中学部もでき、70名の子どもたちが通ってきてくれて、100名を超える人が欠員待ちをしている学校になりましたが、ここまでの道のりは、山あり谷ありで、いろんなことにぶち当たり、向き合いながら歩んできました。

市民の手で立ち上がった「素人集団」の私たちが、今日の日まで学校運営とそれまつわる NPO 事業を続けてこられたのは、たくさんみなさんとの出会いと、一つひとつのことにともに向き合い、対話を積み重ねながら、次の一歩を考え続けてこられたからだと思います。

この20年間、時代は大きく変わり、私たちが創り続けてきた学校が、多くの人から求められるようになりました。廃校を利用し、できれば学校法人で、2校目を創っていくことで、子どもの声を聴くことから始まる教育を、一人でも多くの子どもたちに届け、日本の学校教育のあり方そのものにも問いを投げかけ続けていきたいと思っています。

コクレオとは、ともにつくるという意味です。これからの先も望むミライを、みなさんと共に創り続けていければと思います。どうぞよろしくお祈りします。



代表理事・藤田美保
MIHO FUJITA

みんなで創るミライの学校プロジェクト (2校目づくり)進捗状況のご報告

2022年は、さまざまな自治体の廃校を見学してきました。廃校を利用するためには、首長、企画部局、教育部局、地域住民の4つの意見がまとまることが重要です。この1年間は、2つか3つまでは揃うけど、残りが壁になるということに何度か直面しました。

また、大阪と兵庫では、新規の学校法人格の取得がほぼできないことがわかり、既存の学校法人との連携を検討しました。現在は、この映画「夢みる小学校」がご縁で、小中学校を創りたいという学校法人と出会い、話が少しずつ具体的な方向に進みつつあります。



MESSAGE

「夢みる小学校」 監督のオオタ・ヴィンです。

子どもの村とこどもの森。なんだか似てますね。日本の学校教育は苦手な教科を強化（ダジャレです）する「短所克服法」です。子どもの村やこどもの森では、そんな「野蛮」で「非科学的」なことはしませんよね〜。楽しくて夢中な時に、脳内にドーパミンはどんどん溢れ出すからです。

やりたいことをする。楽しいことをする。
俺って最高！私って素敵！って想い続けられる。
自分のままでいいんだよ、って得心できる。
生きていくためにこれほど大切な「学習」はありません。
どうか、みなさん、ずっと好きなことを続けてください。
大人の言うことはあんまり信用しないで、
おじさんたちがつくった世の中をどんどん変えてください。

こんな素敵な学校をつくられたコクレオの森のみなさまに感謝いたします。
日本中に、こうした教育が広がりますように。
20周年、おめでとうございます。



映画監督・オオタ・ヴィン
VIN OOTA

🎬 夢みる小学校

監督：オオタ・ヴィン 2022年2月4日公開
上映時間：1時間31分

「夢みる小学校」では自己決定、個性化、探求学習の原則を大切にしている「きのくに子どもの村学園」傘下のうち、山梨県にある南アルプス子どもの村小学校をメインに取り上げる。劇中ではテストや宿題がなく、いわゆる“先生”もいない学園での取り組みが映し出されていく。



CONTENTS

特集：20周年に寄せて	P1~P2	おとなの森	P13~P14
20年のあゆみ	P3~P4	こそだての森	P15~P16
対談1：こどもの森：新しい学校の設立	P5~P6	ミライの森	P17~P18
対談2：こどもの森：子どもが学びの主人公	P7~P8	2023年 年次報告書	P19~P26
対談3：こどもの森：学ぶと生きるをデザインする	P9~P10	あとがき	P27~P28
対談4：こどもの森：みんなで創るミライの学校	P11~P12	協賛	P29~P30

20 YEARS & COUNTING

20年のあゆみ



01 大阪に新しい学校を創る会〜わくわく子ども学校 新しい学校の設立

気づけば20年。今やコクレオの森がどうやって生まれたのか、ご存知ない方もたくさんおられることでしょう。20周年記念対談第1回目は、元代表理事のまーちゃん、元副代表理事のまっすんと、わくわく子ども学校卒業生のはるかちゃん、むぎとくにインタビューし、コクレオ黎明期からわくわく子ども学校時代の思い出を振り返りました。

対談日：2023年3月19日



まっすん × まーちゃん × むぎと × はるかちゃん

増田 俊道：元副代表理事(2002-2011)

辻 正矩：元代表理事(2002-2022)

北出 麦人：2010年度卒業生

多喜 春華：2008年度卒業生

二人の出会いから始まった学校づくり

—まーちゃんが学校を創ろうと思ったのはなぜ？

まーちゃん 当時私は大学で建築学を教えてたんですけど、学習意欲が低い学生が多かったんです。学期の初めとかは200人近い学生が来るんですけど、だんだん少なくなって。でも学期末試験の前になるとまた一杯になるということですね。疑問があれば対話をするとか、学習者が主体的に関われるやり方が本当じゃないかと思っていました。1993年の春に東京シューレに見学に行ったんですね。各地から20人くらい見学に来ていた中に、大阪から来てる高校の教師がいて、「私も大阪」ということで帰りがけに飲み屋に誘ったんです。



—その教師がまっすんですね。

なぜまっすんは東京シューレに行こうと思ったのですか？

まっすん 僕は1985年から教師をやってたんですが、学校とか教師とか実はずっと嫌でした。なんで高校ってこんなにおもしろくないんだろうと思って、何か別の道はないかなということで、きのくに子どもの村学園や自由の森学園に見学に行ったりして、その一つが東京シューレだったんですね。大阪から来ているし、一緒に酒飲む中でなんか話が盛り上がり、大阪に帰って何か一緒にできたらいいねみたいな話になったんです。

まーちゃん いよいよもう学校を創ろうってなって、99年に大阪に新しい学校を創る会を立ち上げました。初めは5人ぐらいのメンバーでしたね。**まっすん** 小学生を集めて、エコハウス（※まーちゃん自宅）で第1第3土曜日に、土曜わくわくクラブを開いて、子どもたちと相談しながら自由に遊んでいました。

まーちゃん そこで2、3年ぐらいやって箕面に来たんですね。ここで学校をやらうって話になって。箕面は教育意識が高い人たちが多かったらうということ、近くに山があって緑があるということ。

まっすん ついでに言うと、「わくわく教育フォーラム」がおもしろくて、最初に大阪教育大の森実さんに話をしてもらって、あとはアメリカのチャータースクールのマイロ・カッターさんが2002年に日本に来て、チャータースクール研究会みたいなものが全国的に出来てたんですね。京田辺の吉田敦彦さんやきのくにの堀さんの話を聞いたりとか、結構孤立してなかったんですね。いろんなところと繋がりがあって。

—これからのこどもの森に何かメッセージは？

まーちゃん 子どもたちの芽が良い方向に伸びているなっていうのを感じたんですね。自分の気持ちに沿って伸びているっていう感じ。最後どういう花が咲くか、楽しみにしています。

まっすん こういう学校、この場の存在ってとっても貴重で、既存ではないやり方でこんなに上手く行ってるんだということを示してもらってるなと思います。

念願のわくわく子ども学校開校。卒業生の今の思い

—はるかちゃん、わくわくにどんな思い出がありますか？

はるかちゃん 私は小2でわくわくに入学しました。そもそも小1の時は学校が好きではなくなって感じてました。誰かが分からなくてもそれを拾わずに一斉授業で、「これはこう言うことなの」と言われるのがすごい気に食わなくて。わくわくにいる時は点数で評価されたり、成績表があったりしたわけじゃないから、逆に反動で、公立中学に入ったら「あー、点数出るって言うことか、なんかちょっとおもしろいな」と思いました。でも、高校に上がった時に、やっぱりしんどいって思いました。

—むぎとは小1で初めて入学した人でしたね。

むぎと 多分、家から1時間45分ぐらいかかっていて、それが日常だったんですが、帰りは疲れて和歌山まで乗り過ぎてしまったりとかしてました。わくわくは、全校集会が多数決ではなくて。話が終わらなかつたら、また次の集会でも同じ議題で、サークルになって本当に一人



ひとりの顔が見えてる状態でしゃべれてました。中学は、きのくにに進んだんですが、共通点は異学年と一緒に授業を受けることがあって、それはすごい自分に合っていました。

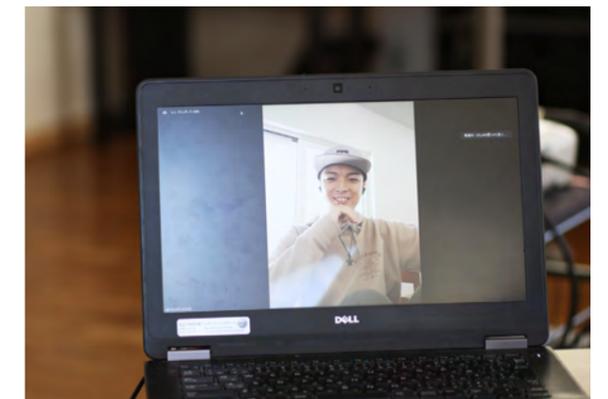
—お二人が今、どんなことをしているか聞かせてください。

はるかちゃん 今はバイト中で、あと1、2年働いてお金を貯めて、デンマークのフォルケホイスクーレに行きたいです。自分が興味あることは実際にその人に会ったり、自分の足で出向きたい

なって。3.11の東北大地震の時中学生でしたが、どれだけ時間がかかっていいから、自分の足で東北に足を運びたいと思ってました。大学生のときは、NPOに出会って、1年間休学して女川で子どもたちに放課後勉強を教えたりしていました。

あとjiwajiwaという沖縄の基地問題に取り組む団体を友だちとやります。いま日本ではこういう課題があって、私たちはこういうところに直面してるんだよっていうのを知ってもらいたいと思って、スタディツアーをしています。

むぎと ピースポートに乗って世界を見て回ったり、いまは北海道の外資系ホテルで働くのにハマってます。なんでいいのかというと、言葉も年齢もみんな違うから、本当にバックグラウンドが違う人と仕事できる。違うってところからスタートしているのがめっちゃいいなと思ってます。来月からアメリカにちょっと1か月くらい行って、そこからオーストラリアにワーホリでいってまた働こうかなって感じ。働くってことは、お互いに価値を提供しあって、お互いにハッピーになれるってめっちゃいいやんと。それが多分これからの一生のテーマやなって思ってます。



02 箕面こどもの森学園 子どもが学びの主人公

2009年、小野原に移り、「箕面こどもの森学園」として歩み出しました。しかしまだまだ子どもの人数は少なく、たった6人からの再スタートでした。そのころのこどもの森に、はじめて新卒で就職した元スタッフのゆりちゃん、在籍し卒業したふうちゃん、だいきに、当時のこどもの森の様子や、そこで学んだものを伺います。インタビュアーは、当時からスタッフを務めているあゆです。

対談日：2023年2月26日

もっと自分らしく、自分のペースで

—なぜこどもの森のスタッフになろうと思ったの？

ゆりちゃん はじめてこどもの森に見学に来たのは、14年前20歳の時で、全校生徒は7人。それから学習サポーターを2年しました。そのときのお給料は、交通費とこどもの森の中だけで使える地域通貨moriだけ（笑）。

こどもの森に就職しようと思ったのは、まーちゃんが、私が持っていた社会への疑問の話を丁寧に聴いてくれたのが大きいです。当時は20代の若いスタッフがおらず、NPOを続けていくためにも必要ではないかと思ったし、こどもの森ならばいろんなことができると感じました。私自身が民主的な感覚をもって生きること、実践することを必要としていたし、excitingだから飛び込んでみようと思いました。



—ふうちゃん・だいきは、なぜこどもの森に入ろうと思った？

ふうちゃん 私は、小学校4年から3年間、こどもの森に通いました。お母さんがこどもの森の関係のことをやっていた（ふうちゃんのお母さんはスタッフ）、こどもの森のことは知っていて、保育園のときに体験にきたけど、私は公立の小学校に通うことを選びました。

でもそこで、数字や点数で評価されること、全員が同じことをやらなければならないことに違和感を持ち、もっと自分らしく自分のペースで学びたいと思うようになりました。こどもの森に入ったら、自分のペースで学習を進められるのが本当によかったです。

だいき 私は小2の終わりに初めて来ました。公立の小学校では、多数派が正義だ、と思い知らされてきました。何も関わっていないのに、みんなが言ったからと、いじめの主犯にされたこともあります。お前がいじめたんだろ！と。担任から体罰をうけ、しばらく学校に行けなくなりました。そこから逆にいじめられることもあって、理不尽さを感じていたときに、母が色々と居場所を紹介してくれて、そのなかのひとつがこどもの森でした。

それで来てみたら、少数をめちゃめちゃ大事にする、なんていい環境なんだ！と。ここは自分がいてもいい場所なんだ、と思って入りました。



ふうちゃん × だいき × ゆりちゃん

佐藤 美優子：2011年度卒業生

安藤 大生：2014年度卒業生

中尾 有里：元スタッフ

子どもたちは、**やりたかった劇団アニマルズ**！

—実際にこどもの森で活動するなかでの、印象的な思い出は？

今は部活みたいなのをやっている人はなくて、あのころは劇団アニマルズやダンス部があったりしました。ふうちゃんはアニマルズの団長で、だいきは団長を引き継いだよね？

ふうちゃん アニマルズのことは、成功体験として残ってます。なぜアニマルズをやろうと思ったのかというと、そのときドラマがブームで、演劇をしてみたいと思ったから。全校集会で投げかけてみたら、けっこう人気でほとんど全校生徒が参加することになりました。夏祭りとか、イベントの時に演劇の公演をやって、みんなにも喜んでもらって。**ふうちゃん** はじめての公演は「おつかい」の絵本です。主役のなっちゃんは、普段はシャイで無口なのに、舞台では堂々と演技していて、それが感動的で、演劇はこんなに人を動かすんだと思いました。



—それでだいきに代わって、「11びきのねこ ふくろのなか」の絵本の言葉を歌詞にして曲も作ったよね。今でも歌える！あのころは作曲が流行って、こどもの森の歌もあの当時にきたんだよね。

だいき 「こどものもり、こどものもりへようこそ〜」の曲のフレーズは、僕が作り出したも！

ゆりちゃん だいきにとっては、アニマルズはどういう時間だった？

だいき はじめは軽い気持ちで、来年も引き継ぐよと言ったら、看板をもらったんです。ふうの時とは違って、僕らの時は出てくれる子は、4、5人しかいなかった。僕の中では危機でした。なんとでも

成功させたいという気持ちでした。

ふうちゃん 何で引き受けてくれたの？

だいき 芝居が好きで、週1で劇団に行っていて、他のところでもできるなら、こどもの森でもやりたいという気持ちでした。この経験は今も活かされて、今も実は劇団を作ろうと思ってます。

—こどもの森にきてよかったと思うこと、行かなかったらどうだったと思いますか？ここの経験を今どのようにとらえているか、聞かせてください。

だいき よかったのは、少数派の話を聞いてくれること。時間をかけて話を聞くのは大事だということ、ここで学びました。ここではちゃんと話を聞いてくれたし、自分も聞いていた。僕の人生を大きく変えてくれたと思います。時間をかけると、表面的ではないほんのことが見えてくると思います。



ふうちゃん こどもの森での学びは、自分の土台になってる、一生の学びだと思ってます。特にプロジェクトは、自分のやりたいことを何をしてもいい時間で、自分が何が好きで何に興味があるのか、ハードルを低くしてチャレンジすることができました。やりたいことを今語れるのは、こどもの森の学びがあったからと思っています。

ゆりちゃん 私がこどもの森で学んだことは、すごたくさんあります。短い時間では、言い尽くせないくらい。こどもの森での体験から、自分の中や人とのあいだに葛藤や対立が起きた時に、対話すること、それが創造の種になることの面白さに今も魅せられています。

03 ともにつくる中学部の設立 学ぶと生きるをデザインする

2015年。こどもの森に中学部が設立されました。保護者の方々と話し合いを重ね、資金を集め、一緒に設立を目指した日々のあんなことや、こんなこと。設立当初から関わっているスタッフの JUN と、同じく設立メンバーであり1期生の保護者 たくろうさん、そして1期生のちーちゃんにお話を伺いました。

対談日：2023年2月21日

保護者から「中学部創ります」宣言。



—中学部は、どんな経緯で創ろうってなったんですか？

たくろうさん 息子が小5の12月ごろ、この先のことを考えている時に懇談があったんです。私としては、小学校をせっかくこどもの森で過ごしてきて、卒業してまた公立の中学校に入学するのはもったいないように感じていました。なので懇談の時にみほさんに「中学校創ってもらえませんか」という話をしました。そしたらみほさんからは「それはスタッフだけで創れるもんじゃない。保護者とかみなさん一緒にないと、とてもそれは創れません」と返されました。その年の年末年始にじっくり考えたら、「ここでやらんと一生後悔する」と思って、「やりましょう!」とお伝えしました。ほんで、年が明けた新年会で、今いい機会やから言うてまいましょか〜、とあって、「中学部創ります」って宣言したんですよね。

—そこから本当に実現していくとって思っていましたか？

たくろうさん もちろんそれはそう思わなかったらやらないですよ。すでに小学部を創ってはるって実績はあるし、場所やスタッフもいる。あとは、入りたいってしてくれる子どもや保護者、そして資金が集まればできない理由はないと思ってました。

—JUN は不安などはなかったですか？

JUN あまり感じてなかったなって思っていて、むしろ不思議な安心感がありました。

たくろうさん さのっち (JUN) やれなさんっていうスタッフもいる、保護者もやりたいっていう人もいるから、「このタイミングしかない」って、そういう感じでした。

—ちーちゃんはなぜ中学部へ入学を決めたんですか？

ちーちゃん それまで公立の小学校に通っていたんですが、先生がこうしなさいって言って、みんなでやるのが窮屈に感じていて、本当に嫌だったんです。そのまま公立に行ったらダメになっちゃうと思って、それでフリースクールを探していました。お母さんの友だちがこどもの森の保護者で、体育祭の様子を SNS にあげていたので、それを見て、見学に行ってみることにしました。

たくろうさん × JUN × ちーちゃん

辻岡 拓郎：元保護者／中学部設立メンバー

佐野 純：校長／中学部スタッフ

松尾 千穂：中学部1期生／卒業生



世間のモノサシより、自分のワクワクを。

—実際に通い始めてどうでしたか？

ちーちゃん 最初の印象通りでした。やっぱりそれまでの公立では話し合いの場がなくて、話し合おうみたいな時間があっても、先生が暗黙の了解的に結果を決めていて、それに沿ってみんなが話し合うだけだったので、そこがやっぱり違うなあと。

—中学部の3年間で学んだことには、どんなことがある？

ちーちゃん 話し合いのやり方とかもあるけど、1番は、自分がどういうことが楽しいと思うのかっていうことに気づけたのが1番の学びかな。ワールドオリエンテーションの時間も楽しかったなあと思っていて、それは調べた内容っていうよりも、調べる過程がけっこうおもしろくて、自分はこういうのが楽しいって思うんだなあ、っていうのをそこで知ったかな。

たくろうさん 深いね。結局、いろんな人に話を聞くにしても、海外行くにしても、いろんな経験を通して、自分の価値観というか、自分のここが好きなんやなとか、こういうのは許されへんねんとか、そういうことを知っていくことでもあるもんね。

ちーちゃん あとは、こどもの森は大人と接する機会がすごく多いと思う。なので、大人に意見を言ったりとか、大人が相手でもビクビクしないというか、それが今も生きているなって思います。



—これからの中学部に期待することは？

JUN 中学部を創ってきた人たちが関わっている時と、7年たった今、関わってくれている人たちでは、やっぱり違う部分はある。それでも常に自分たちで創っているんだってチャレンジしている学校だったらおもしろいかなあと感じます。

たくろうさん やっぱり変わっていくもんやと思うから、昔と違って当たり前やし、今の人たちに求めるのもちょっと違う気もする。でも、やっぱりどうしようと思った時には、自分たちの「学ぶと生きるをデザインする」というビジョンとか理念とかにはその創立の時の想いが凝縮されているから、北極星じゃないけど、そこに立ち返ったらいんじゃないかなあと感じます。本も何冊か出ていますが、1冊目の「こんな学校あったらいいな」でも、なんで学校を創りたいと思ったのか、っていうのが書かれていて、多分みんなそこに共感してここに集まってきてると思うから、そこを読み返したりもしながら、ああやっぱそうやんなって、そこに答えがあるというか、みんなが大事にしている言葉とか考え方に立ち返ってみる。それがいいんじゃないかなあと感じます。ほんで、これからどうしようとか、どんな学校にしようとか、それを子どもと一緒に考えていける機会があるといいよね。



04 これからの学びの場所 みんなで創るミライの学校

インターンからはじまって、今はこどもの森の低学年クラスの担当として、こどもの森の根幹を支えてくれるスタッフぶっきーと、小学部と中学部にそれぞれお子さんを通わせる保護者であり、コクレオの森の理事でもあるかよこさんのお二人に、これまでのこどもの森とこれからの教育や学びについてお話を聞きました。

対談日：2023年3月8日

自分も人も大切に
する学校

—こどもの森に関わり始めた時の印象は？

ぶっきー 子どもが自分から学んでる学校、自分で学びを引き受けてやっている学校だなんていうのをすごく感じました。当時、「主体的」とか「主体性」って何だろうと思っていて、こどもの森の人たちの様子を見ていたら、生き生きしてる子も、生き生きしてない子もいるなかでも、どの子も自分事として引き受けてるっていう感じはすごくあって、その感じがすごいなあ、みんな自分で決めて、今はこれをやるってやってるのがすごいなあ、と思っていました。

かよこさん 保護者として、子どもにのびのび学んでほしいというところを主眼にして選んだんですけど、こどもの森はもっと深かった。自己肯定感、自分も人も大切っていうのを前面に出して、まずは自分を大事にするんだとか、自分の存在そのものを大事にするっていうところに一番重きを置いていることが入学してからわかりました。



—こどもの森に期待することは？

ぶっきー 自分の願いとしては、こどもの森の教育の目的って、「民主的な市民を育む」っていうことで、一人の人間としていとか、対等な関係みたいな、それぞれの現場にいる人たちが、自分事として色々変わっていくとか、そういう感覚がすごくいいなって思っているから、そういう場所であり続けてほしいなと思います。この学校は本当に子どもが学びの主人公だし、そこにいるスタッフの僕も、自分が一人の主人公的な感じはして、これから学校が大きくなって、誰かトップが決めるとかじゃなくて、一人の人として対話をしながら決めていくみたいな。その本質的な部分が変わらずあり続けたら、形は色々あってもいいんだろうとか、そんなことを思ってます。

かよこさん 常識とか学んできたことって、それがずっと真実かっていったら、絶対違うんですね。時代が変わったら、それが正しいって教えられてきたことが変わっていたりとか、文章を書くとかもそうだし、以前やっていたことが機械化によってどんどんやらなくてよくなったり、今や使わない知識になっていたりとかっていうことがあると思うんです。でも、絶対変わらないのは、やっぱり子どもたちとか、人間が自分のことを認めて、自分のことを信じる力だと思うんですね。その力を持っていさえすれば、常識とか知識とかが変わっていい



ぶっきー × かよこさん

矢吹 卓也：こどもの森 低学年スタッフ

近江 佳代子：保護者/コクレオの森 理事

個人の学びから、
ともにつくる学びへ

たとしても、いつか自分の使命じゃないですけど、何かを見つけた時に、それなりに道を切り拓いていくんじゃないかなって思えるようになりました。なので、こどもの森が本当に大事にしている、主体的に学ぶという教育理念はそのまま大事に続けてほしいと思っています。

—どんな学びがこれからは大事なのでしょう？

ぶっきー 社会は一斉授業から、それぞれにタブレットを支給するような個別最適化へという流れが生まれてきていると思っていて、でもその中で失われていくものって、やっぱり人との繋がりとか、学んで分かったことを共有したらすごく嬉しいとか、一緒にやって楽しいとかっていう、そういう生きた繋がりがみたいなことが、ちょっとずつ失われていってるんじゃないかなと思っています。個別で学ぶことももちろん大事だし、でも、共同でそういう生きた学びを展開していくっていうことが本当にすごい大事だなと思っています。やっぱり自分自身が人との繋がりを



喜べるというか、楽しんで繋がるっていうことだったり、自分も人も許せるというか、そういう本当の幸せみたいなところに繋がっていくような学び。そういうところに進んでいきたいなって思うんですね。

かよこさん そうなんです。共同は一つキーワードかなって思います。10年どころか、5年ですごい世の中は変わるじゃないですか。その中できっと大事なのは、主体的に学べるっていうことと、もう一つはやっぱり人と何かを一緒にできるっていうことだと思うんですね。それがコミュニケーション能力かもしれないし、こどもの森の場合は、自分も人も大事にして、認め合いながら、みんなでそういうスキルをあげていける。

それをベースでずっとやっているのでも、もしかすると、その学びっていうところでも、普通環境にいる子どもたちよりも、もっとすごいことができるかもしれないって思ったりするんですよ。だって、多数決もしないし、みんなで多数決をせず、誰もが納得できる点を探りながら対話をしていくって文化のベースがあるので、みんなと一緒にそれぞれの得意分野を生かして、もう少し大きなテーマで共同することができたら、もっとなんかすごいことになるかもしれないって思ったりします。

—どんな場所になっていけたらいいでしょうか？

かよこさん いい意味での同質性の高い場所になっちゃって、もっとこう、多様性っていうか、いろんな人が来られるような学校になれば一番いいのかなと思います。

ぶっきー そうですね。こどもの森が選りすぐった人の理想郷を作っちゃってるんじゃないかっていう思いになるところも実はあって、だか



ら本当は、いろんな人に届くようになっていけたらいいなっていうのはすごく思います。社会的にも子どもの権利を認めた基本法が作られていく中で、やっぱりこういう場とか人に、補助もついて、ちゃんとお金が回りながら、多様な人が入ってこられるインクルーシブな場。届く人にしか届かない場では違うと思うから、一つ街の中にある学校として、いろんな人が行けたり、関わられる場所になっていけるといいなって思います。僕の中ではそういうインクルーシブっていうのは、すごく考えさせられるテーマになっています。

1 学び場コーディネーター Manabee プログラム

2017年に始まった「Manabee」は2023年で7期を迎えました。こどもの森学びの4つのエッセンス「自己肯定感」「自己決定」「対話」「ESD」を軸に、実際にこどもの森の生徒対象に学習プログラムを実施するという体験型講座です。受講生から「Manabeeで人生が変わった!」「Manabeeは人生創造プログラム」と言われるほど、教育を超えた人生の学びになっていて、熱烈なファンがいるのがManabeeの特徴です。

受講生がこどもの森のスタッフやManabee担当スタッフになったり、運営委員として活躍したりしています。



OTONA-NO MORI

おとなの森の5年間

「おとなの森」と呼び始めたのは2018年度からですが、それ以前にも大人のための講座やイベントを開催していました。古くは学校設立準備期間に始まった「わくわく市民教育フォーラム」や、開校後に始まった「わくわく教育セミナー」があり、一般市民対象に子ども主体が主体となる新しい教育について発信してきました。2012年に初めて合宿型イベント「哲学キャンプ」を開催、それが今の「Manabeeプログラム」に繋がっています。

3 教育の枠を超えたさまざまな企画を実施 もりラボ

会員さんがもっと主体的にコクレオに関われるようにと、2018年にスタートしました。会員さんがやってみよう講座やイベントを企画、実施できる「もりラボ企画」では、「コーヒー焙煎講座」「予祝会」「宇宙カフェ」など、教育の枠を超えたさまざまな企画が実施されました。ただ、その後は企画数が減ったり、企画しても申し込み数が規定を下回るなどで企画が下火になり、一時休止状態となっていました。ところが2022年、保護者の中から「コーラス部を立ち上げたい!」という要望が上がり、当初温めていた「もりラボサークル」を実施することに。現在コーラス部「コクレオン」が絶賛活動中です。他にもサークルをつくってみたい方、イベント企画をしてみたい方は、いつでもご連絡ください。



2 ともにつくるためのリーダーシッププログラム ともつく

「対話」に特化したManabeeの深化版プログラムとして、2022年にお試し開催し、好評だったので2023年も開催しました。コクレオのコンセプトである「ともにつくる」をキーワードに、一人ひとりが自分自身と深くつながり、リーダーシップを発揮して場をつくっていきました。合宿の夜の深い対話の時間と、約3ヶ月かけて日常で取り組む体験が、個人の内的変容を促すプログラムです。受講生からは「安心安全な場だったのは、スタッフがこうあらねばという囚われを手放しているから」「自分も相手も大切にすることで、対話が生まれると感じた」といった嬉しい感想が寄せられています。



教育カフェ
~100回つづける対話マラソン~#75

話題提供者
坂野 晶さん
ゼロ・ウェイスト・ジャパン理事
2020年 8月21日(金)19時~21時30分@オンライン

ゼロ・ウェイスト 上野町 循環型社会 タボス会議

教育カフェ
~100回つづける対話マラソン~#76

話題提供者
能條 桃子さん
一般社団法人NO YOUTH NO JAPAN 代表理事
2020年 11月27日(金)19時~21時30分@オンライン

政治 若者 ジェンダー 気候変動

教育カフェ
~100回つづける対話マラソン~

話題提供者
永崎 旅幸家・英 旅
2021年 5月30日(日)10時~12時@オンライン

Still on Fiji Time

教育カフェ
~100回つづける対話マラソン~#80

話題提供者
永遠瑠マリールーズさん
ルワンダの教育を考える会理事長
2021年 7月9日(金)19時~21時30分@オンライン

ルワンダ 命の輝き

第81回 教育カフェ
~100回つづける対話マラソン~

話題提供者
玉木 幸則さん
一般社団法人 兵庫県相談支援ネットワーク 代表理事
2021年 9月3日(金)19時~21時30分@オンライン

福祉 パリパリ 脳性マヒ

第82回 教育カフェ
~100回つづける対話マラソン~

話題提供者
大阪 2021年 11月12日(金)19時~21時@オンライン

学校教育 政策提言 生き合う

4 100回つづける対話マラソン 教育カフェ

教育カフェ・マラソンは「対話の文化を育み、子どもたちを豊かに育む社会を創っていこう」という想いで2012年にスタートし、2022年度までに89回開催。さまざまな分野の方を話題提供者としてお招きし、その方のライフストーリーをお伺いした後、熟議テーマについて参加者同士でグループに分かれて対話をしています。2020年6月からは「教育カフェ~100回つづける対話マラソン~」としてリニューアルし、現在は2か月に1度、オンラインで開催しています。実行委員にはこどもの森の卒業生も加わり、ともに教育カフェの場づくりをしてくれています。



1 子育てカフェ こどもの森のハッピーアドバイス

自己肯定感の大切さを伝える「子育てカフェ」。2014年にスタートし、今年で10年目を迎えました。当初はスタッフ1名でほそぼそと運営していましたが、その後担当メンバーが増え、現在は4名のチームとなっております。参加者からは「ここに来ると大切なことを思い出します」「あたたかい場でホッとします」といった声を多数いただいています。2023年より夜の部「子育てBAR」を実施し、働くパパママたちにも喜ばれています。

Online



2 豊能町子育てひろば だんでらいおん

2022年3月より、豊能町でコクレオ初の業務委託事業として子育てひろばを運営しました。「子どもはニコニコ ママパパはホッとできる場所」をコンセプトに、設計者の思いのこもった北欧風の施設を使い、心のふれあいを大切に実施してきました。町の方針変更により2023年6月に閉室となりましたが、たくさんの素晴らしいご縁に恵まれ、地域の方たち、スタッフのみなさんに愛される事業ができたことが誇りです。

3 親と子の土曜クラス そら

就学前の親子対象の「そら」は“自然と暮らし”をテーマに月2回のペースで活動を行い、20周年を迎える今年は8年目になります。初めの3年間は箕面こどもの森学園と千里北公園を拠点とし、2019年からは川西市黒川の里山で活動していました。箕面での「そら」では、子どもは千里北公園で自然遊び、大人は子育て講座や暮らしのクラフトを楽しみました。また、ダイナミックな自然遊びを求め能勢の里山で川遊びや山登りの活動も行っていました。この願いが通じたのか、4年目の「そら」は黒川公民館(旧黒川小学校)の里山に

拠点を置くことになり、さらに今年度より黒川里山センターと名前が変わり、私たちコクレオの森が指定管理業務を始めました。8年前には想像すらなかった里山での活動ですが、ふり返れば地域の方々に支えられてきました。黒川公民館の危険な状態で放置されていたウッドデッキをみんなで改修したことも思い出されます。里山の四季折々で変化する自然、そしてそれと共にある暮らしには、様々な発見ややりたくなるものがたくさんあり、子ども、大人関係なくそれぞれの時間を楽しんでいます。



KOSODATE-NO MORI

こそだての木の5年間

ふり返ればわくわく子ども学校時代に、「子育て遊び場」という親子の野外活動と「子育てしゃべり場」という子育て学習会を実施していました。また、学校設立準備として2000年にスタートした「土曜わくわくクラブ」は「子どもの健全育成事業」として引き継がれ、「森のようちえん」「こどもの森エコスクール」と名称を変えながら2012年まで続けました。2016年「親と子の土曜クラスそら」が始まりました。直近の5年間の活動をご紹介します。



4 発見・つくるを楽しむ 森のアトリエ

小学生の親子クラス「森のアトリエ」は、黒川公民館を拠点に2019年より活動をスタートしました。里山での自然遊びや様々な素材のあるアトリエでのモノづくりを通して、発見・つくるを楽しんでいます。自分のやりたいことに出会い、やってみる、そして目標を定めて試行錯誤を繰り返してみる…そんなゆったり時間を里山が提供してくれています。大人も、親子で自然遊びやモノづくりを楽しみながら、里山コーヒーを片手にウッドデッキで“私”の時間を過ごしています。また、米や野菜作り、しめ縄飾りや著作など里山の暮らしと共にある“仕事”も提案しています。月一回の活動ですが、街中の日常から少し離れた里山ゆったり時間を子どもも大人も楽しんでいます。



5 里山スクール 風

日常生活から息抜きできる場を提供したいという願いから、昨年小学生のための平日クラス「風」をスタートしました。“やりたいことに出会い、やりたいことができる環境”を整えつつも、子どもが通えるアクセスを考え、能勢電鉄「妙見口」集合解散、黒川公民館までの3キロは里山散策としました。月2回ですが、遠いと感じた道のりも今では歩くことが当然のようになっています。里山散策では四季折々の発見があり、ハッピータイムではその発見を伝え合い、共感の輪をひろげています。4人からのスタートでしたが少しずつ参加者が増え、今年度は水曜日と木曜日、月4回開催しています。保護者の在籍校への働きかけで、「風」の参加日が出席扱いになる学校も出てきています。昨年は、子どもの“やりたい”から実現した「風マルシェ」で、生き生きと準備する姿に魅了されてしまいました。

今後も、こどもまんなかの心地よい時空間を創っていきたいと思います。

1 手触り感とつながりを感じられる暮らしを求めて ロハス

2018年、2019年は、「ロハスinこどもの森」を開催。箕面こどもの森学園にてフェアトレードや有機野菜など、たくさんのお店に出店していただき、歌や音楽のパフォーマンス、卒業生による世界の旅トークなども行いました。マイ箸やマイコップの持参、ゴミの持ち帰りなどを呼びかけ、エコにも配慮し、私たちの日々の暮らしと世界や地球とのつながりを感じる1日となりました。

2020年はコロナ禍のため、オンラインと小規模なリアルイベントとを同時開催。ロハスウィークと名付け、里山にあるお店を期間中に回ってもらったり、里山でのミニイベント、オンラインでのワークショップに参加してもらいました。

こうしたつながりを受け、2021年、2022年は、会場を里山地域である豊能町に移し、「1日がっこうと里山ロハス」として開催。様々なお店が出店するロハスに加えて、地域の方が先生となり、いろんなプログラムを受けることのできる「1日がっこう」も開催。地域のみなさんともつながり、望むまちをともに創っていく手触り感とつながりを感じられるイベントとなりました。



1日だけやってみる。
理想のがっこうと
持続可能なくらし

1日がっこうと 里山ロハス



MIRAI-NO MORI ミライの森の5年間

箕面こどもの森学園では、ESD (持続可能な社会の担い手を育む教育) を実践しています。そこで大切にしていることをいろんなカタチでまち(地域)にも伝え、「望む社会(ミライ)をともにつくっていききたい」というのがミライの森で、主に3つの活動をおこなってきました。

2 コクレオの森、2校目づくり

箕面こどもの森学園が70名の定員いっぱいとなり、入学を希望して欠員待ちをされている方も100名を超え、2校目づくりを模索してきた5年間でした。箕面こどもの森学園で大事にしていることを、ロハスというカタチで地域に伝えつつ、全国いろんなところに視察に行く中で、学校だけではなく、その学校がある地域も一緒に豊かになっていくことができると考えてきました。そのため、2校目は、行政とも連携し廃校を利用し、できれば学校法人の学校として運営していくことを目指し、いろいろと活動してきました。

当初は、「富士山に登ったこともないのに、エベレストに登ろうとしている」ぐらいの途方もない道のりに思いましたが、ロハスを通して出会った地域のみなさん、こどもの森、こそだての森、おとなの森の活動での出会い、さまざまな人のサポートのおかげで、「富士山登頂はでき、海外の山に登りに行けるぐらい」にはなっているかと思えます。

この5年間の活動を足掛かりとして、25周年には、こんな学校を創りましたとご報告したいと思っています。

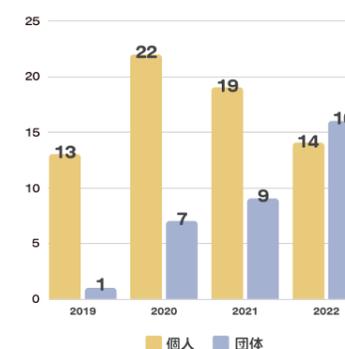
みんなで創るミライの学校プロジェクト オンラインイベント

- 第3回 4月16日 参加者60名
公立学校からコクレオにきた2人
箕面こどもの森学園のスタッフに聞いてみよう!
- 第4回 5月26日・28日 参加者56名
寄付者限定 オンライン見学者&コクレオ感謝祭 支援の輪
- 第5回 6月25日 参加者83名
民主的で主体的な市民が育つ学校
~自由学園と箕面こどもの森学園~
- 第6回 8月5日 参加者52名
箕面こどもの森学園のこれまでとこれから~新旧校長が語る~
- 第7回 10月2日 参加者30名
コクレオの年次報告書2021を読む会
- 第8回 12月2日 参加者65名
これからの教育はどう変わればいいのか
~朝日新聞編集委員 氏岡真弓さんと考える~
- 第9回 1月27日 参加者53名
ご報告 ~2校目づくりの道のり~
- 第10回 2月24日 参加者80名
卒業生トーク AO入試という選択

3 学校づくりのサポート

学校づくりに関心のある人の見学や、「箕面こどもの森学園さんのような学校を創りたいんです」という問い合わせが後を絶たず、全国各地から見学者がやってきます。そんな中、学校づくりのノウハウを教えてほしいという方のために、2018年から、「サスマナ(サステイナブルな学びプラットフォーム)」という学校づくりを支援する事業をスタートしました。

サスマナ 登録者数



サスマナ

サステイナブルな学び
プラットフォーム



2022年次報告書

2022 ANNUAL REPORT

- p21-22 こどもの森の1年
- p23-24 数字で見るコクレオの森／2022年度活動計画書
- p25-26 2023年度の主な活動計画／寄付のお願い
- p27-28 あとがき／個人協賛／インフォメーション
- p29-30 団体協賛

2022年度／コクレオの森 おもな出来事

- 4月 ① 新校長 佐野純就任
- ② 豊能町子育てひろば「だんでらいおん」正式オープン
- ③ 水曜クラス「風」スタート@黒川公民館
- ④ ともにつくるためのリーダーシッププログラム(ともつく)スタート
- 6月 ⑤ 新代表理事 藤田美保就任
- 7月 ⑥ 夏休み学童プログラム「つばめ」開催
- 8月 ⑦ 「ビジョン実現ミーティング」開催
- 9月 ⑧ 年次報告書2021発行
- 11月 ⑨ 「一日がっこうと里山ロハス」開催
- 1月 ⑩ コクレオ詣(新年会)開催
- 2月 ⑪ 川西市黒川里山センタープレイベント開催

①	②
③	④
⑤	⑥
⑦	⑧
⑨	⑩



箕面こどもの森学園は、今年で20周年。
自分も人も大切にすることを
子どもたちに伝え続けてきました。

2年ぶりの 海外研修 中学部 ベトナムへ



中学部の研修旅行ではベトナムを訪問。2年ぶりの海外研修でした。ホーチミン近郊でベトナム戦争について学んだ他、中部のフエでは児童養護施設と地元の中学校を訪問し、子どもたちと交流をしました。お互いに言葉が通じない中、すぐに打ち解けて楽しい時間を過ごすことができました。中学生たちは、「現地に行かないとわからないことがある。あの空気や雰囲気は体験しないとわからない。」と話していました。



大分

行くか行かないから決める 高学年の修学旅行

2022年度は話し合いの末、京都に行ったその足で大分へ行くことが決まっていた。毎年修学旅行の話し合いはそれぞれで大変なのですが、今年はなんと旅行直前に学校で水ぼうそう

が流行り、実施が危ぶまれる大ピンチに。緊急集会が開かれ

水ぼうそうで欠席している人もオンライン参加して話し合いをしました。その結果、大分行きと京都行きの2回に分けて実施するという案が浮上り、全員納得のすばらしい対話を経て、無事修学旅行を楽しむことができました。

京都



社会が変わっても、変わらないもの（'22卒業式のスピーチより）

この社会ではいろんなことが起こり、学びの場も変わっていくと思いますが、それでも変わらないものは何でしょうか。まず「子どもが学びの主人公」であること。そしてそれぞれが自分自身の「学ぶと生きるをデザインする」ことではないかと思っています。「平均的な人」に合うようにしっかり計算して作られた飛行機の操縦席は、誰にもフィットしないものになっていて、たくさんの事故が起こったことがあったそうです。「普通」や「平均」とはそういうものです。そんな外にある基準に惑わされずに、いつも今の自分を見つめてほしいと思います。だってあなたたちは、いつもそのままですごく素晴らしいから。これからも、他の人になろうとしないで、ぜひ自信を持ってあなた自身になり続けていってください。

佐野 純

校長(2022年度)



中学部では、初めて「文化祭」を開催！占いやゲーム大会などユニークなお店を準備しつつ、椅子とダンボールを重ねて、本番前日の放課後遅くまで残って、全員で巨大迷路を作りました。普段はバラバラのように見えても、ひとつの目標に向かって創り上げていける繋がりやの強さを感じました。



協力して活動する

中学部 文化祭!

ベスト まとめ展!

自分を表現する



お気に入りのプロジェクトを発表する「ベストまとめ展」。オリジナルカレンダーや、たくさんのアイロンビーズ作品、友だちと共同で作った小さな家、自分たちで考えた「ドミノおきおきゲーム」など。お気に入りポイントや工夫したところ、楽しかったことなどを思い思いに伝えました。

多角的に考える

中学部の ワールド オリエンテーション!



自分が直接体験から得た情報を集めて発表しようと「マイメディア」のテーマ

に取り組みました。大阪市西成区で地域支援をする団体や地域の映画館などに出かけてインタビューするなど、それぞれが自分で動いて情報を集めて発表をしました。

2022年 の様子

学習計画を 立てる!

自律して学習する

子どもたち一人ひとりが1週間の学びを振り返り、スタッフと短く共有の時間を持った後、来週取り組みたいことを決めます。選択プログラムを取るかどうか、プロジェクトは何をするのか。学びを自分のものとして捉え、自分で選択し、見通しを持つことを大事にしています。



チャレンジする

長期 プロジェクト!

小6が取り組む長期プロジェクトは、アルバム作り、ピアノ鳥の絵、イラスト、理科の実験、ゲームブック、ルービックキューブ、サッカーとそれぞれの個性が表れていました。試行錯誤、ときには停滞しながらも、自分の内面や課題と向き合いました。



2022年度活動計算書

2022年4月1日～2023年3月31日まで
[税込] (単位:円)

勘定項目	2021年度(前期)	2022年度(今期)
●受取会費	1,524,000	1,834,000 ①
●受取寄付金	1,968,364	4,972,070 ②
●受取助成金等	880,500	300,000 ③
●事業収益		
こどもの森	38,861,970	40,820,515 ④
こそだての森	1,971,763	2,615,553 ⑤
おとなの森	553,229	949,624 ⑥
ミライの森	701,690	771,837 ⑦
子育てひろば	385,000	5,017,200 ⑧
●その他収益	277,080	197,040
経常収益計	47,123,596	57,477,839
●事業費		
人件費/法定福利費	30,979,338	38,096,700 ⑨
その他経費		
事業支出	3,122,711	2,486,033
期首棚卸高	298,607	288,595
書籍仕入	72,116	285,956 ⑩
期末棚卸高	△288,595	△178,905
会議費	11,534	10,031
福利厚生費	48,489	66,160
消耗品費	—	43,616
事務用品費	—	218,820
水道光熱費(事業)	—	250,846
地代 家賃(事業)	800,400	783,000
減価償却費(事業)	4,073,456	3,879,314
その他経費計	8,138,718	8,133,466
事業費計	39,118,056	46,230,166
●管理費		
人件費	2,523,552	2,621,318
その他経費	4,933,249	6,325,645
管理費計	7,456,801	8,946,963 ⑪
経常費用計	46,574,857	55,177,129
税引前当期正味財産増減額	548,739	2,300,710
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000
当期正味財産増減額	478,739	2,230,710
前期繰越正味財産額	93,106,107	93,584,846
次期繰越正味財産額	93,584,846	95,815,556 ⑫

- ① カード決済システムの利用者が増加し、継続して会費納入していただけるようになりました。
- ② このうち、2,096,100 円はマンスリー寄付。2,600,000 円は使途を限定された寄付で、スタッフの待遇改善などに使用しました。これとは別の、前受金とした学校法人に向けた寄付は、305,888,257 円となりました。
- ③ キリン福祉財団から 200,000 円、ACCU から 100,000 円の助成金をいただきました。
- ④ 2022 年度の生徒数は、小学部 47 名、中学部 18 名でした。
- ⑤ 土曜親子クラスそら、森のアトリエ、水曜クラス風、子育てカフェなどの事業収入です。
- ⑥ Manabee プログラム、ともつく、教育カフェなどの事業収入です。
- ⑦ サスマな、1 日があっこうと里山ロハス、講師謝礼の事業収入です。
- ⑧ 豊能町から業務委託を受けて、子育てひろばを運営しました。
- ⑨ 常勤スタッフ 5 名、専任スタッフ 3 名、非常勤スタッフ 17 名分の人件費となります。
- ⑩ 「こんな学校あったらいいな」を 100 冊追加購入しました。
- ⑪ その他経費には、広告宣伝費、保険料、顧問料、リース料、租税公課などを含みます。
- ⑫ 約 9581 万円を次年度以降に向けた資金として繰越しました。この資金を土台に、廃校を利用した 2 校目の設立と、コクレオの森の持続可能な運営のための組織体制づくりを実現させていきます。

コクレオの森 会員数

正会員
165名
賛助会員
149名
団体会員
7団体

コクレオの森 スタッフ数

常勤スタッフ
8名
非常勤スタッフ
17名

箕面 こどもの森学園 在籍者数

小学部
47名
中学部
18名

箕面 こどもの森学園 卒業生数

小学部
68名
中学部
25名

箕面 こどもの森学園

入学希望見学者
95組
一般見学者
119名

イベント年間 参加者数

子育てカフェ
のべ**117**名
森のアトリエ
のべ**169**組
そら
のべ**290**組

イベント年間 参加者数

教育カフェ
のべ**102**名
もりラボ
のべ**51**名
マナビー
のべ**139**名
ともつく
9名

コクレオの森 講師依頼

派遣回数
23回

イベント年間 参加者数

水曜クラス 風
のべ**130**名
夏の学童保育(つばめ)
のべ**24**名
サスマな学習会
のべ**55**名

数字でみる コクレオの森

2022 年度のコクレオの活動を象徴する数字を集めました。
*2023.3 現在

※紙面の都合上こちらには掲載できませんでしたが、貸借対照表・資金収支計算書・財産目録は、当法人の WEB サイト (<https://cokreono-mori.com/npo/news.html>) に開示しております。あわせてご覧くださいませ。



事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。又、計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、当法人の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に表示しているものと認めます。
2023 年 5 月 31 日 監事 屋代由佳 / 宮田伸弘

2023年度の 主な活動計画



こどもの森

「こども基本法」高学年テーマ学習

高学年では、「こども基本法」を取り上げました。法律ができた背景や子どもの権利条約などを学んだ後、絵本の作成、アートでの表現などを通して発表しました。自分も人も大切に、子どもたちが自分の権利を自覚できるとともに、相手の権利も尊重していける人になっていってほしいことを願っています。

ことば・かずの学習

低学年クラスでは、個別・共同の学びを大切にする「ことばかず」を探究しています。共同体験をする「ミニレッスン」。個別に練習したり、具体的な体験をする「やってみよう!」という教材を作成し、子どもたちが「わかる楽しさ」を感じながら、自分のペースで学べる形を目指しています。今後は、高学年、中学部へと発達段階を考慮したものを構想していきます。

中学部 研修旅行

今年度は韓国を訪問する予定です。オルタナティブスクールでの交流をプログラムのメインとし、中学生とともに計画を進めていきます。ワールドオリエンテーションでも「韓国と日本」をテーマに学習していくので、現地を訪問した際にはどんな発見があるか楽しみです。

こそだての森

子育てカフェ & BAR

子どもがいきいきと幸せに生きるための自己肯定感を育むコツを、「子どもの自己肯定感の育み方」「幸せな親子関係」「おとなの自己肯定感」の3つの視点から、1年間に渡ってお伝えしています。また、日中仕事で参加できないという方のお声を受け、今年度はお試して夜の部「子育てBAR」をスタートさせています。

里山スクール 風

今年度は、水曜と木曜の週2回のクラスとなりました。小学生30名ほどが登録し、毎回10名ほどの子どもたちが参加しています。みんなで協力しておいしいものをつくり、山の風や生き物たちの声を聞きながら、いただきます。午後は、アトリエで自分たちの好きなものを作って楽しんでいます。「やってみたいを形に」ここならできるみんなのチャレンジをこれからも支えていきます。

おとなの森

こどもまんなか 学び場プログラム (Manabee) ~子どもの声を聴くために~

今年は「三方(参加者、Manabeeサポーター、学びの場の子ども達)よし」を意識しました。具体的には講座部分を平日4回から全日2日にまとめ、合宿を復活させました。講座のお昼休みや合宿の夜の時間に、参加者の会話がぐんぐん増え、プログラム中の対話が深まることと思います。また、サポーターには余裕が生まれ、充実した状態で参加者をサポートできます。共育プログラムに参加する子ども達が主体的に学びを楽しむことがManabeeのゴールです。それぞれの学びがより深まるデザインにしました。

ミライの森

川西市黒川里山センター

2023年4月より、市の委託を受けて「川西市黒川里山センター」をコクレオの森が管理・運営することになりました。里山センターは、廃校となった黒川小学校を再利用した施設です。貸室、ハイキングでの一般利用の他、親子向け自然体験活動、小学生のための平日の里山スクール、黒川の自然や暮らしを知るイベント等の事業を展開していきます。黒川は「日本一の里山」と呼ばれ、美しい棚田、天然記念物の台場クヌギ、茶道に使われる菊炭の生産等、見所満載です。是非、一度遊びに来てください。



黒川里山センター
ホームページ



コクレオをともにつくる

1 まずは、SNSで活動を知る

コクレオの森
 @cokreono_mori
 cokreono_mori



2 お金で支援する

① 都度寄附

郵便局でのお振込・お振替

郵便振込用紙に必要事項をご記入の上、ご送金ください。
【振替払込】 00980-7-232403
【ゆうちょ銀行口座】 記号:14020 番号:68190721
【加入者名】 NPO 法人コクレオの森

銀行口座へのお振込

ゆうちょ銀行四〇八支店 普通 6819072
 口座名:NPO 法人コクレオの森

寄附金引受書をダウンロードし
 右のQRよりFAX、または郵送ください



② オンライン寄付サイトからの寄付

1日16円からできるマンスリーサポーター

子どもの個性を尊重し、対話のある学びの場を提供する活動の輪を広げるため、二校目の設立をめざしています。継続的な応援をお願いします。



クレジットカードで単発のご寄付

金額3000円～金額を選択して単発のご寄付をしていただけます。ご寄付をいただければ、寄付者向けのオンラインイベントにご参加いただけます。



3 お買い物をして応援する

商品を購入いただくことで、売上の一部がコクレオの森への寄付となります。

ネットショップ

パン工房～みのり～ <https://minori-pan.stores.jp/items/64d0f4d0f6dd21002c8f2653>



osakacut ツツクバーム <https://osakacut.thebase.in/items/20933782>



4 一緒にミライを創る

個人でも法人でも、「ともにつくる会員」になりませんか? NPO会員に入会していただくと、情報が届きコクレオの森の活動に参加できます。

正会員 ----- 6,000円
 賛助会員 ----- 3,000円
 団体賛助会員は1万円～



学校を創り続けた20年のあゆみ

2004



2005

2006

2007

2008



2009



2010

2011

2012

2013



2014



2015

2016

2017

2018

2019



2020



2021

2022

2023

みんなで創るミライの学校プロジェクト

(2022年4月～2023年3月の寄付活動まとめ)

支援者数 **のべ237名** (のべ400名)
 金額 **8,609,420円** (15,780,020円)

※()内の数字はこれまでの累計

20周年記念にあたり、ご支援いただきました個人・企業の皆様
 ご支援いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

VIAMINO	大志
大阪保険サービス株式会社	DON DON English
オーベルジュヤマガミ	日本グルントヴィ協会 清水 満
河野寿一	株式会社パワーブランディング
京都信用金庫	むさしの学園小学校
株式会社ソースクリエーション	ヤチココアシステム株式会社
合同会社ソマティックジャパン	他匿名2件

※敬称略 あいうえお順 ※次ページにも、協賛企業様を掲載しております

あとがき～20周年を迎えて

子どもが箕面こどもの森学園に入学し、私自身もコクレオの一員になり、2年が経ちました。

はじめはよくわからない状態からとにかく学校について自分自身で体感したいと子育てカフェ、manabeeプログラム、森のアトリエ、ともつく等に参加していきました。それぞれの中で学びと気づきが沢山あり、自分自身の変化を感じ、コクレオが大好きになりコクレオ推し活をさせてもらっています。

コクレオで五感をフル動員して、ふれあういつも温泉に入っているように心地良く、まずは「自分を大切に」という生きていく上で大事なことを肌で感じ、このままの私で良いんだ」と私自身の自己肯定感も育まれ、対話の面白さや対話の力、「ともにつくる」ことの楽しさを感じます。

子ども達ともスタッフとも保護者同士ともひとりひとり、人間対人間でふれあっているとココロが白、赤や黄色、青、緑、空色、萌黄色やパステルカラーなど色彩豊かに広がっていくのを感じます。

一度学校に来てもらえると、この幸福感は体感して貰えると思います。

改めてコクレオの森、20周年おめでとうございます！
 このときを共に迎えられた事をとても嬉しく思います。こどもの森と出会えて良かった～。これから更にコクレオの森が大きく広がっていき、益々色とりどりで豊かになっていくことを共に願い、ワクワクしながらともにつくっていきたいと思っています。

20周年の記念誌の編集にあたり、お忙しい中沢山の方々のご協力と声援に感謝を致します！

2023年6月
 保護者であり、コクレオファンの林めぐみ

ご支援ありがとうございます。(2023年8月)

多くの個人・企業の皆様にコクレオの森は支えられています！

子どもたちに
地球も 地域も 大切に 残したいから。

- こだわり電気&まちづくり -

- 再エネ・地産比率の高い電気
- 電気代から地域のNPO団体などを応援
- 教育、防災、交通などの取組みで、まちを元気に

おうち電気 申込 受付中 /

能勢・豊能まちづくり

電気を替えてコクレオの森を応援

2.5%

毎月の電気代の上限 2.5% をコクレオの森に寄付！

再生可能エネルギー (FTE含む) が 82% (2020年実績)

さらにSDGsも達成

TERA Energy

旬の新鮮な野菜と
信頼できる安心な食べものを
ご自宅までお届けします！

入会金・年会費・配達料不要、全戸個別

入会のお申し込み・お問い合わせはこちら

よつ葉ホームデリバリー

(株)産地直送センター

0120-30-4280

<https://www.yotuba.gr.jp/>

社会保険・雇用保険・労災保険
就業規則・労使協定の作成・届出
助成金申請 / 給与計算 / 労務顧問

代表 社会保険労務士
藤森 加奈
Kana Fujimori

結
社会保険労務士事務所
Labour and Social Security
Attorney Office

〒538-0053
大阪府大阪市鶴見区鶴見1-6-59-1420
☎ 080-3782-0339
✉ fujimorikana@fujimori-sr.com

OSAKA UNIVERSITY
FORESIGHT



nuweb by RITAWORKS

NPOのための
ホームページ制作

社会課題解決をともにデザインする

オリジナル販促・グッズ製作の専門店

アイジェット

iJET



タカジョウ



一般財団法人
レオ財団
LEO Incorporated Foundation

TANAKA PROJECT

株式会社 田中企画

TSUZUKU
Hair Wax
Original For Men

Osaka CUT つづく まさよし

株式会社
鶴と亀

MIRAI.INC

ブランディング デザインで
コクレオを応援
この年次報告書を作りました